![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　平成２８年度1月号（2017.1.20）

　園長　平澤　正則

餅つきと安全

　1月13日（金）園庭で餅つきを行いました。12月に焼芋会を行った時，たまたま朝の送りで玄関まで来ていた数人の方が園庭で火を燃やしている私の姿をみていたので，焼きあがるのは10過ぎです，よかったら見に来てくださいと声をかけたところ，7人もの方が来てくれました。少し余分にあったので食べてもらったらおいしいといってくれたのが嬉しかったです。

　そのお母さん方の嬉しそうな表情に味をしめて，今回急でしたが餅つき会の案内をお配りしたところ，20人以上の保護者や祖父母の方が見に来てくれました。急な話だったので仕事の休みが取れなくて残念です，との声も聞きましたし，また，いろいろな用があって行けないとか，そういう方には申し訳ないなと思いながらも，一方で喜んでくれる方もおり，複雑な思いもありますが全ての方が満足する企画もまた困難なことであることから，良かったと思うことにしました。私の考えとしては，是非来ていただきたいと思うものは余裕を持ってお誘いの連絡をしておりますので，今回のような突然の知らせには無理してお付き合い（園に対してではなく，子どもに対してです）をしてくれなくてもいいと思っています。無理な付き合いではなく，全ての行事について言えることですが，自分の楽しみと考えて来ていただきたいと思います。当日気づきましたが，次回は椅子を用意したいと反省しました。

　数年前にはＰＴＡ役員さんの手伝いをいただいて実施したこともあるそうですが，その方だけ忙しくご自分の子どもの様子をみることができなかったそうで，それ以来お手伝いはお願いしなくなったそうです。今回も職員だけでできる方法（手でつくのは一臼のみとし他は機械を使用，つく量を最小限にする。）をとりましたので，来年もこれで続けようと思います。

　世間ではノロウィルスなどの感染症を心配し，餅つき行事を取り止める幼稚園や保育園，小中学校などがあると聞きます。餅つきが危険だと考える団体や家庭では今後餅は機械でついたものしか食べないのでしょうか。私たちの先祖が千年以上（これ以上はっきりとはわかりませんが）に渡り，守り伝えてきたこの伝統ある食物とその製造方法をその形のまま受け継いでいくことは危険なことなのでしょうか。どんなものにも危険は伴います。それはいつの時代にも，どの場所でも考えられ得るものだと思います。だからといってその方法を一方からだけ観て避けて通ることが安全への最善策なのでしょうか。確かに，「君子危うきに近寄らず」とか「転ばぬ先の杖」などといわれるように，“行事の取り止め”という状況になってしまうことがあるかも知れません。しかし，取り止めることが安全への唯一の道ではないと思います。例えばノロウィルスに対しては，臼や杵は85℃以上の熱湯に1分以上浸すことにより殺菌できるし，食器は次亜塩素酸ナトリウム0.02％以上の溶液で，手もその薄め液で消毒できます。

　先人の苦労や知恵は体験することによってよりはっきりとその有難さなどを感じることができるものです。そしてその体験によってはっきりと次代への引き継ぎ方法を知ることができます。ですから体験は貴重なのです。消毒や殺菌，滅菌の処法により，それはより安全に次世代へと引き繋ぐことが可能となるわけです。

　全ての行事に対し，安全を考えながら今後も取り組んでいきたいと考えています。